

平成 23 年度 保育サポーター研修会

と き 平成 24 年 3 月 11 日 (日)

ところ 山口県医師会館 6F 会議室

〔報告:理事 田村 博子〕

3 月 11 日に第 3 回目となる保育サポーター研修会を開催した。保育サポーターバンクは設立後 2 年半が経ち登録者は 125 名に増え、県内ほぼ全域に登録者があるようになった。研修会の参加は 48 名 (女性 43 名、男性 5 名) で託児の利用が 4 名あった。

研修会は男女共同参画部会の松田昌子部会長の挨拶に始まり、最初に保育サポーターバンク運営委員長の松田昌子先生 (兼任) と保育相談員の崎里節子さんからバンクの説明があった後、岩国短期大学幼児教育科教授の山縣明人先生から子どもとどう向き合うかについて、「おもしろくてちょっとだけたくなる (ご本人談)」お話をうかがった。先生のお話は「見ること」と「聞くこと」によるイメージが大きな役割を持っていて、会報記事として字面になってしまうと、その雰囲気が伝わらないのではないかと懸念される。先生の話された言葉と私が見て聞いたことが混然とした文章になってしまったが、当日の雰囲気的一端でも伝えることを願って報告する。

講演「ワクワクドキドキの子育て—子どもの心と遊びに響き合うサポーターとは—」

岩国短期大学 山縣明人教授

講師の山縣先生は日頃全人教育の立場で幼児教育者の養成に専念されている立場から、さまざまな小物やパフォーマンスを用いて、楽しい講演をしてくださった。まず、「幸せなら手をたたこう」でアイスブレイク。次にパッチアダムスのような赤い



鼻をつけて壁のパントマイム。これは幼児との出会いの実演であり、ふたつのベルを打ち鳴らしてきれいな音色でその壁をなくしてしまうパフォーマンスをされた。以下、折々に実技を織り交ぜて分かりやすく話された。

ベルはお互いがきれいな心で響きあえば美しい音色になるが、一方が心を閉ざすと音色が変わり、双方が心を閉ざすとカチカチという音になる。出会いは肝腎である。どうしたらいいか、そのためには素直になろう。素直とは、こころと身体が相手が大事と思うものにまっすぐにつながっている状態である。そうならば相手は自然に心を開くものだ。次に、「見る」と「聞く」と「身体性」について。話を聞く時は目で見よう。最初の出会いに笑顔は大事である。出会うときはちょっとずつ近づこう。自分が幼い時を思い出して、好きだった大人との出会いを思い出そう。人間はイメージタンク。自分のイメージにないことは行動にできない。

保育者五戒 (上原輝男先生) というものがある。この戒めを守るとこどもと楽しく時間を過ごすことができ、こどもの命をはぐくむことができる。その一は、「目の輝きぐあいを見守っているか」。その子は何にわくわくするのか。目の輝きでその子が関心のあることを知り、それを育む。その二

は「心の鼓動を聴こうとしているか」。心根は音色でわかる、何を話すかでなく、どう話すかを聞こう、子どもの気分を折ることは意欲を折ってしまうことになる。子どもの話は「は行」で受けよう。(はああそうなの！へええすごーい！) 言語能力は家庭児の方が保育園児に勝っているが、これは声かけが多いからであって、食べさせる時も「おいしい？」など声をかけることが大事である。また抱かれていない子は転びやすく、しっかり抱くことも大事。それから読み聞かせはとても大切である。気分が出ていると子どもは何回でも聞きたがる。

次に「よい頭、きれいな心、強いからだ」を育むにはどうしたらいいか。五戒のその三は「指先を見落としていないか」。手先を使って遊ぶことも重要で、好きなものを描かせると良い。図鑑の絵を写させてもかまわない。その際、大人が自分でも描くことも大事である。ブロックなどは、クリエイティブな能力を刺激する。

その四は「ことばの音色を聞きつけているか」。「さみしい」と言うときは「つまらない」「あきた」という意味のこともある。気分を変えて散歩を試みるのもいい。

その五は「人なつっこさに応えているか」。相性のよくない子は少し距離をおいて徐々に近づいてもいい。ぶすっとしている子はこちらに感情を出せているとも考えられる。毅然とした態度も必要であり、ドクターの子だからと言って、勘違いをおこさせてはいけない。親と同じ働く者として、人生を歩む同士として立場を忘れてはいけない。またその家のきまりには従わなくてはならない。「よい頭、きれいな心、強いからだ」の中で一番大切なのは「きれいな心」である。ドクターの子

どもは将来社会的に尊敬される立場になることを期待される場合も多い。そのことも頭に入れて向かい合ってほしい。

先生の講演は歌あり身振りありで楽しく、子どもへのアプローチの方法や向き合い方も具体的で、サポーター活動にすぐ実践できそうな内容であった。聴衆からもあっという間の時間だった、面白くためになった、など多くの感想が寄せられた。先生は「今日の話は全部忘れて下さい」とおっしゃったが、皆さん多くを持ち帰られたのではないと思われる。

地区別昼食懇談会で

講演後、下関、山陽小野田・美祢・長門・萩、宇部、防府・山口、周南・下松、岩国・柳井・大島・熊毛の地区ごとに別れ、各グループに保育サポーターバンク運営委員会のメンバーも加わって昼食懇談会を行った。毎回参加される方もおられる一方、新聞記事を見て最近登録したばかりという方も何人かおられた。実働がなく、研修会だけ参加するのは申し訳ない、という方もおられたが、多くの方は研修会でサポーター同士やバンク運営委員会のメンバーと話ができたことを喜んでおられた。

事業開始時からの総相談件数は 41 件、サポーターバンク利用も 20 件あり、利用者からは本当に感謝しているとの声を聞いている。運営委員会も登録して下さっているサポーターさん達に大変感謝している。まだまだ 1 件 1 件試行錯誤のところもあり、特に保育相談員の崎里さんにはご苦勞をおかけしている。皆で少しでも良いものにしていきたいと考えているので、会員の皆さまにも是非ご理解とご協力をお願いしたい。

